



平成 29 年度  
西山小学校  
学校だより

# 杉

第 24 号  
平成 29 年 9 月 1 日(金)  
文責：菊地正人

教育目標 ～ 深い雪にも耐え 大空に向かって たほしほっすぐ伸びる 西山の杉のような子どもを育てる

## 避難訓練 ⇒ 大雨や土砂災害に備えて！

きょう 9 月 1 日は『防災の日』です。これは、1923 年(大正 12 年)9 月 1 日に発生した「関東大震災」に因んだものです。内容的には、広く国民が台風、高潮、津波、地震等の災害についての認識を深め、これに対処する心構えを準備するという理由で、防災の日としています。本校でも、これと関連させ、西山中学校との「合同避難訓練」を実施しました。**大雨が続き、校舎裏側で土砂崩れが発生する危険性が出てきたため、まず校庭に避難するが、安全が確保できない状況になってきているので、砂子原公民館へ二次避難する**という想定で実施しました。子どもたちは、訓練という意識はなく、実際に起きた場合を想像し、真剣な表情で参加することができました。また、学校と砂子原公民館との移動時には、今年も中学生が小学生の手を引いて安全に留意しながら、一緒に歩く姿が見られ、とても頼もしく感じました。さらに、最近隣国からの「弾道ミサイル」の落下に対しても注意しなければならなくなりました。Jアラートや防災無線のサイレン音やメッセージ等の緊急情報や落下時の行動について万が一に備えておうちで話題にしていただけるとありがたいです。



SOS SOS

## 「授業研究：その4」

第 4 回目の授業研究は、本日穴戸先生が 5 年の算数を行いました。「きまりを見つけて」という単元の学習で、正方形の数とその辺の数の変化する二つの数量の関係を表や式に表し、規則性を見つけ出す内容でした。4 名全員がいつものように真剣に授業に臨み、自分の力で解決しようとする姿が見られました。また、「Key note や School Takt」と呼ばれる ICT 関係のアプリを iPad や電子黒板で活用しながら、意欲的に取り組みました。



## 「がんばりました！」 ～全国学力・学習状況調査～

すでに、新聞等で報道されましたが、今年度の「全国学力・学習状況調査(全国学カテスト)」の結果が分かりました。これは、4 月に全国の 6 年生約 100 万人、県内では、約 15,000 人が参加した調査です。国語・算数と普段の学習に対する心構えや生活面の調査も併せて行われました。6 年生 7 名はこれまで学習した内容の問題に真剣に取り組んだ結果、2 教科とも全国平均・県平均を上回りました。本当に素晴らしいことで、大いに称賛したいと思います。これからも、自信をもたせながら、毎日の授業と家庭学習(宿題)の積み重ねや読書(新聞)も大事にし、学校をあげてさらに向上するよう全校生 26 名を支援していきたいと考えています。なお、後日、個人ごとの個表を渡しますので、参考にしてください。

「メディアコントロール」を家族みんなで！

きょうから、7 日まで実施中です



裏面の新聞記事もご覧ください！

# 新聞読む児童生徒 平均正答率 高く

新聞を読む児童生徒の割合と、テストの平均正答率

小学校					
新聞を読む頻度		国語A	国語B	算数A	算数B
ほぼ毎日読んでいる	8.0%	80.6%	64.9%	84.9%	55.7%
週に1～3回程度読んでいる	13.3	79.2	63.1	83.5	52.2
月に1～3回程度読んでいる	19.3	76.5	59.1	80.3	47.4
ほとんど、または、全く読まない	59.4	72.9	55.0	76.5	43.2

中学校					
新聞を読む頻度		国語A	国語B	数学A	数学B
ほぼ毎日読んでいる	5.5%	82.4%	77.4%	72.5%	55.4%
週に1～3回程度読んでいる	9.7	82.0	77.7	71.4	54.4
月に1～3回程度読んでいる	15.5	79.3	74.7	67.4	50.7
ほとんど、または、全く読まない	69.1	76.6	71.2	63.3	47.0

二〇一七年度全国学力テストの児童生徒を対象にしたアンケートを基に、新聞を読む頻度とテストの正答率との関係を文部科学省が分析したところ、頻度が高い子どもの方が平均正答率が高いとの結果が出た。一方で、新聞を読む習慣のある子どもとの割合は減少傾向が続いている。

「新聞を読んでいますか」との質問に「ほぼ毎日」「週に1～3回程度」「月に1～3回程度」「ほとんど、または全く読まない」と四つの選択肢を用意し、それぞれを選んだ子どもの平均正答率を比較した。

「ほぼ毎日」と答えた子どもの正答率は、中学校国語Bで「週に1～3回」をわずかに下回ったのを除けば、各教科で最も高い

結果となった。頻度が上がるほど成績は上昇する傾向が見られ、「ほぼ毎日」とした子どもと「読まない」と答えた子どもの結果を比べると、小学校算数Bで12.5ポイント、小学校国語Bで9.9ポイントなど、各教科で差がついた。前年度の調査でも「ほぼ毎日」読んでいると答えた子どもの方が他の子どもより正答率が全ての教科で高く、同様の傾向が今年も示された。

ただ「ほぼ毎日」と答えた子どもは小学校で8.0%、中学校で5.5%といずれも一六年度より1ポイント程度減少。逆に「読まない」とした子どもは小学校が59.4%で昨年度より4.9ポイント増え、中学校でも5.6ポイント増えて69.1%だった。